

タイトル:平成 28(2016)年度 教育セミナー(第 12 回)

日時:2016 年 9 月 18 日(日)~21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

岡本 友 (東京外国語大学大学院総合国際学研究科)

今回初めてこのセミナーに参加させていただきましたが、当初の期待以上に大変内容が濃く、有意義な時間を過ごさせていただきました。

受講のきっかけは自分の研究が南アジア、とりわけパキスタンの女性問題だったこともあり「イスラーム」について学ぶ機会になればと思ったことでした。しかし参加してみて、自分の認識が非常に甘かったこと、そして勉強不足だったことを感じました。

まず大変に刺激を受けたのは、同年代の皆さんの勉強熱心さです。受講生の発表がそれぞれにとっても興味深くレベルが高かったのはもちろん、質疑の時間の内容の深い質問やそれらから生じる議論に毎回目を丸くするばかりでした。普段大学院では専門が細分化されることもありごく少数の人で勉強をしているので、イスラームについて研究する同年代が全国からこれだけ一堂に会する場に参加するのも初めてで受講生の皆さんの優秀さに驚く半面、熱心に研究する同年代がいることに非常に勇気づけられました。

また、先生方含め期間中の発表で様々な地域や年代、分野でイスラームが扱われていたことで、「イスラーム」についてより多角的に理解を深める機会になりました。普段は南アジアの文化的背景としてのイスラーム、特にパキスタン社会におけるイスラーム、という限定的な視点でしか見ていないこともあり、今回の発表の前提にあったであろうイスラーム研究の基礎的な知識や情報が欠けていることを痛感しました。そのために発表や質疑のなかで内容が理解しにくい場面があったのが悔やまれますが、それと同時に今後勉強していくための様々な切り口を得ることができました。

講師の先生方のお話では、課程卒業後の歩みやこれまでの研究生生活などを聞くことができ大変興味深かったです。研究には困難や不自由がつきものですが、それを含めた研究することの面白さ、楽しさを感じました。

今回初めてこのような素晴らしいセミナーに参加して、得たものは非常に大きかったのですが、個人的には初日をお休みしてしまったことや懇親会などに参加できなかったことが悔やまれます。次回参加の際は目にするもの、耳にすること全てを余すことなく吸収できるよう万全の態勢で臨みたいと思います。

最後になりますが、このような教育セミナーを企画・運営を通して素晴らしい機会をくださった先生方、事務局の千葉様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

小栗 宏太（オハイオ大学大学院政治学科修士課程修了）

今回のセミナーには、昨年度の中東☆イスラーム教育セミナー、研究セミナーに引き続き参加させていただき、三度目ということで、以前よりもリラックスしてのぞむことができました。

この感想を書くのも三度目ということなので、少し変わった部分から書き始めたいと思います。私がこのセミナーに関して、もっとも楽しみにしていること、そして今回も予想通り楽しめたことは、休憩中、昼食中、あるいはセミナー終了後のスタッフの方々、講師の先生方、そして他の参加者との交流です。そんな機会の何気ない（しかし時として高度に専門的な）会話が、私にとっては、ある意味では、セミナー本番の講義やディスカッション以上に刺激的でした。

現在大学に所属できていないこともあり、普段あまり先生方や同世代の大学院生と交流する機会がないため、今回のセミナー期間中に、セミナー会場、昼食会場、近所の飲み屋、帰りの電車の車内などなど、いろいろな場所でいろいろな方と話をさせていただき楽しかったです。普段の研究の様子やこれまでの経歴について伺ったり、あるいは私の今後のための具体的なアドバイスを頂戴したりして、たくさんの刺激を受け、今後のための大きな励みになりました。

なので私のように普段研究者や大学院生とあまり関わりのない人にこそこのセミナーをすすめたいです。そして今後参加される方には、懇親会に参加したり、可能な限りセミナーのプログラム終了後の時間に余裕をもったりして、交流の機会を増やすことをおすすめします。そして、積極的にいろいろな人に話しかけてみてください。他の参加者に知り合いがひとりいなくても大丈夫です（私も最初はそうでした）。とてもあたたかい雰囲気セミナーで、スタッフの方々も受講生もみな気さくな人ばかりで、気軽に楽しくお話ができました。

こんな風書き出してしまいましたが、もちろんセミナーの正式なプログラムから多くのことを学んでいます。特に私は毎回、普段の自分の研究（人類学）とは関わりのない歴史学の先生方、受講生の発表を特に楽しみにしています。同じような社会を対象としていても歴史学の方法論は、人類学などの現代を対象とする研究とは大きく異なるため聞く事すべてが新しく、勉強になります。特に歴史学の方々の資料（史料）との真摯でかつ親密な向き合い方、得られた情報の緻密な管理の仕方、そしてそんな情報や資料の信憑性が時として根底からひっくり返されるような刺激的なディスカッションの様子を見ていると、自分も他分野ながら同じ学問にかかわるものとして資料／情報の取扱には慎重でありたい、と背筋ののびる思いになります。

様々な地域・時代の様々な学問分野の専門家が集まる、ということには良し悪しがあるかとは思いますが、私個人としてはそのように得るもののほうが多いと感じます。

そんな、期間中様々な体験ができるすてきなセミナーです。今後の私の研究人生どようになっていくかわかりませんが、このセミナーとそこで得たかけがえのない経験と仲間は、その中で、きっと、つねに振り返り続ける「実家」のような存在になるだろうと感じています。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

勝本 英明（九州大学大学院人文科学府）

今回、初めて『中東☆イスラーム教育セミナー』に参加させていただきました。参加させていただいて、私が一番感じることは、全国各地のさまざまな専門分野を持つ学生と直接出会い、その研究に触れることで、自らの視野や関心の幅を広げることができた喜びです。

「日々、自らの勉学、研究に取り組んでいると、とかく自分の専門分野にばかり目が行き、視野が狭くなりがち。そのことが自らの研究の幅や広がりブレーキをかけてしまうということにもなりかねない」。最近、そんな思いに駆られていた私にとって、今回は自らの視野を広げる良い機会となったと感じています。今回、参加させていただき受講生の生の研究発表を拝聴させていただくことで、そのような研究分野もあるのかとか、そのような研究手法もあるのかと、発表者の熱意や覇気も肌で感じながら、より実感することができたと思っています。

研究発表の質疑も活発でした。受講生はもちろんですが、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)や各大学の先生方の鋭い質問やコメントも、研究対象を見る目を養う上で、非常に有益だったように思います。初参加で最初はとても緊張していましたが、発言しやすい雰囲気の中、とても有意義な討議だったと思っています。

また、受講生の研究発表だけでなく、先生方によるセミナーも、ありました。東南アジア、イラン、アラブ、オスマン帝国といった多様な専門地域や時代、歴史、人類学、経済といったさまざまな学問分野の幅広い内容でした。そのセミナーの中では、ご専門のお話だけでなく、なぜ研究者を志したのか、なぜ、この専門分野、専門地域を選択したのかという研究人生にかかわるお話もあり、大変興味深いものでした。質疑の時間も設けられており、先生方は具体的かつ丁寧にお答えくださり、大変勉強になりました。

さらに、プログラムの合間にある休憩時間や昼食時間、プログラム後の懇親会において、受講生同士で日ごろ、どのような環境の中で、研究、勉強をしているのかなど、情報交換、意見交換できたことも大変有意義でした。私は九州・福岡で勉強しているのですが、東京や関西、中部などの他地域の大学の皆さんの活発な研究状況を知ることができ、大いに刺激を受けました。また、先生方から、いろいろとご指導、ご助言を受けられる貴重な時間でもありました。

最後になりましたが、このような充実した内容のプログラムを準備し円滑に運営してくださったAA研や各大学の先生方、スタッフの方々に、心より感謝申し上げます。数日の日程の中で、これだけの幅広く密度の濃い発表、お話を拝聴することができ、とても充実したものだったと感じています。今回の受講で得られた成果を、自らの今後の研究に生かせるよう努めたいと思います。

児玉 恵美（日本女子大学大学院文学研究科）

今回、中東☆イスラーム教育セミナーに初めて参加させて頂きました。以前、学校のゼミナールで、このセミナーの話を知っており、ぜひ参加したいと思っておりました。4日間集中的に受講できるこのセミナーでは、院生による研究発表、先生方のセミナー、院生や先生方との交流の機会があります。セミナーを通して、研究発表を聞くときの姿勢、自分の研究へのヒント、今後研究を続けていくにあたってのキャリアステップなど、多くの事を学ばせて頂きました。

院生の研究発表、先生方のセミナーは、中東・イスラームに関する、様々な時代や地域の研究を聞き、または、発表することができる場であり、様々な分析視角、方法論に触れ、研究への視座が広がったように思います。私は聴講生として参加させて頂きましたが、専攻している歴史以外にも、ジェンダー論、思想、経済など、様々な分野の研究発表を聞くことができ、とても新鮮でした。多様なリサーチクエスチョンに、いろいろなアプローチから資料を用いて入念な分析をされていて、発表後は、院生や先生方から様々な観点からの質問が挙がりました。質問や指摘からの気づきも多々あり、質問からも得るものが大きかったように思います。自分の修士論文の進捗状況を反省し、史料の読み込みが不足していると痛感して、頑張っていこうと大きな励みにもなりました。また、修士課程の院生が研究発表できる場を提供してくれるという点でも、このセミナーの存在はとても有難い場なのだと感じました。私自身も、発表させて頂きたいと思いました。

また、同年代の院生や先生方とじっくり交流する機会があることも、このセミナーの魅力だと思います。昼食の時、セミナー間の休憩の時、セミナー終了後にも、院生や先生方からお話を伺う機会がたくさんあります。研究の相談から、研究を続けていく上でのアドバイスなど、いろいろなお話を伺うことができ、有意義な時間を過ごさせて頂きました。修士課程の院生の方たちに、ぜひこのセミナーへの参加をお勧めしたいと思います。院生として論文を書いていくにあたり、先生方や参加者の人たちと交流する中で、研究について深く考えるとともに、様々な角度から視点を広げてくれる機会ともなりました。このセミナーを通して学んだことを今後の研究に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、先生方、事務局の千葉さん、参加者の方々、このセミナーに関わる全ての皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

坂田 舜（九州大学大学院人文科学府）

今回、私は東京外国語大学において開かれたセミナーに参加させていただきました。その中で、感じた利点や得たものを三点ほど挙げたいと思います。

一点目は、同世代の大学院生と接することができたことです。と言いますのも東京や大阪・京都といった都市部ならばともかく、九州等の地方の大学院に通っていると、周りに同じような研究をする同志（とでも言うべき人たち）がなかなか見つかりません。確かに、研究というのは基本的に孤独な戦いなのかもしれませんが、やはり一人の状態では孤軍奮闘するよりも、ある程度「ヨコのつながり」を持って研究をした方がモチベーションの維持や情報共有の点から見ても有利でしょう。そのような中で、研究を志している大学院生と交流する機会があるというのは地方住みの学生には大きな利点です。また、同世代の院生の皆さんが発表を行い、先生方からの様々なご指摘を受ける様を見て、自分自身も精進しなければならぬと、刺激を受け、また反省もしました。

二点目は、研究者の先生方の様々なお話が聞け、また交流させていただくことができた点です。これもまた一つ目と同様に、都心部の大学のメリットを地方の学生も受けることのできる一例でしょう。今回は中東・イスラーム世界をご専門になさっている先生方のお話はもちろん、東南アジアやイスラーム経済を対象になさっている先生方のお話も聞くことができ、知見が広がりました。また、懇親会の席では今後の研究の相談もしていただき、大変ありがたく、また有意義でした。

三点目は、先生方・院生の皆さん発表を問わず、異なるディシプリンの話が聞けたことです。普段から私は、歴史学という枠組みの中で研究を行っております。そのような中で、歴史学とは異なったアプローチで対象に迫る発表を目にする中で、自分とは異なるディシプリンで研究をされている方々が、どのような問題関心を持たれているのかを知ることができ、非常に視野が広がりました。それだけではなく、今回セミナーをされた先生方の中に異なるディシプリンを渡り歩いた先生のお話も聞け、今後、自分の研究を進める上で、とても参考になりました。

以上のことを総括いたしますと、「井の中の蛙」であることから脱するきっかけになるというのが、私が得たことと言えるかもしれません。このセミナーに参加させていただくことができて本当に良かったです。

最後になりますが、このような貴重なセミナーを企画してくださいました先生方・事務局の皆様、ありがとうございました。

杉山 菜々子（東洋大学大学院国際地域学研究科）

今回初めて中東☆イスラームセミナーに参加させて頂きましたが、普段“中東”や“イスラーム”世界について研究する同世代や年齢の近い方に多く出逢った事のない身としては、まず配布された参加者のプログラムを拝見し、その数の多さに圧倒されました。セミナーに参加するまでは、「セミナーでの発表や講義の内容・研究テーマについて自分は理解できるのだろうか」という不安を抱いてもいたのですが、実際はイスラーム・中東文化について様々な観点から研究してらっしゃる方が多くいらしたにも関わらず、題目だけでは一見自分の研究テーマとはかけ離れたと思える研究発表も研究内容を聞くと、今後の自分の研究に活かす事ができそうなお話、文献などが多数ありました。自分と研究テーマが比較的近い方とは、研究に関わる参考文献やインタビュー調査などの情報交換、自分の研究する分野とはかけ離れた分野を研究されている方からは、普段自分が進んで調査するものとは違うイスラーム世界の事柄についてお話を聞く事ができ、今セミナーをきっかけに講義や発表以外にも大変貴重な交流を持たせて頂けたと感じております。

先生方の講義やセミナーでの発表も勿論素晴らしかったのですが、個人的には何よりも今回このセミナーで“イスラーム世界”について様々な研究をされている多くの方に出会えた事が今回のセミナーの醍醐味だと思っております。このセミナーに参加するまでは、イスラーム世界について研究する学生なんて数える程しかいないのではないかと、勝手に心細く思っていたりもしたのですが、実際セミナーに参加すると沢山の同世代の学生が“イスラーム世界”について興味を持っており、皆様々な分野に手を広げ、各々研究されている事を知る事ができた事で、今後調査などで行き詰る事があっても辛いのは自分だけではないんだという気持ちを持って、乗り越える事すらできそうです。また自分とは異なる研究分野に触れる事で、もっと知識や知見を広げたいという知識欲も改めて抱くことが出来ました。昨今の世界情勢の動きと共に、中東地域やイスラーム文化について興味を抱く学生が増える可能性もあると思いますので、是非今後もこの「中東☆イスラームセミナー」継続して頂ければと思います。

最後になりますが、今回は今セミナーの為に忙しい中、貴重なお時間を割いて下さった先生方、千葉さん、他大学の先生方、セミナーを通して出会う事ができた学生の皆さんに感謝致します。

瀧川 紫音（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）

私にとって、今回のように、様々な大学に所属する同世代の学生の方々と一緒にセミナーに参加することは初めての経験です。初日から、堂々とした受講生発表や質疑応答で次々と手が挙がり、議論が展開されていく様に圧倒されると同時に刺激を受けました。今までは、セミナーや研究会というと、学生が手を挙げて発言するというのがなんとなく気が引けるようなところがありましたが、本セミナーは先生方のサポートをいただきながら、学生が主体になって参加できる印象を受けました。学生に発言機会が多く与えられていたことで、自分が質問をすることはもちろんですが、他の人がどんな質問をするかなどを通して、研究の場での議論の実践練習ができたように思います。アットホームではあるけれど、しかしほどよい緊張感もある、という空間が、落ち着いて発表内容を理解することや、自分が抱いた疑問の整理などを促してくれたようにも感じ、まさに理想的なセミナーでした。

今回、トルコ、レバノン、イラン、エジプトなどなど、様々な国のイスラームを知る機会を得ました。テーマも文学や、経済や、宗派思想など多岐にわたり、自分と異なるフィールドや学問分野での研究を聞くことができ、視野が広がったように思います。どうしても、自分の専門とする地域や領域に限定的になってしまうがちですが、一見自分の研究とは関係がなさそうと思われるような研究にふれることで見えないうものが見えてくることはよくあります。今回の発表や講義テーマのなかには、南アジア関連のものはありませんでしたが、発表を聞きながら、自身の専門地域に立ち返って比較したり、思いがけず他地域との接点に気づかせてもらえたりと発見の多い四日間を過ごすことができました。また、一口にイスラームといっても、じつにその内実が多様であることや、イスラームという宗教そのものでなくとも、イスラーム地域と呼ばれる地域が、一枚岩ではないことを知ることができました。イスラームというテーマを扱うときには、地域との関係を見落とさないよう、注視していくことを心に留めておきたいと思います。来年以降、また参加することができたら、次回は発表にも挑戦させていただけたら、と思います。

最後に、本セミナーを運営して下さった AA 研の先生方、千葉さん、セミナーで出会い、刺激を与えて下さった学生みなさんに感謝いたします。

中道 有紀（慶應大学大学院文学研究科）

今年度初めて参加させて頂きました。中東・イスラーム世界を研究する先生方を前に、同世代の院生たちと空間を共にし、意見を交わす4日間は大変濃密で、有意義なものでありました。自分が専門とする歴史学以外にも社会学や文化人類学等々、多様な専門を有する参加者の集う本セミナーは非常に新鮮味溢れるものでした。

先生方によるセミナーは、地域的にも分野的にも内容が多岐に渡っており、自分が普段研究している地域を超えて、新たな知見を得ることが出来ました。改めて中東・イスラーム世界の広がりや多様性を実感したと言えます。また、様々な専門分野の院生が参加していることを考慮してくださっており、基礎的な情報に始まって現地での生の経験に至る多彩な講義内容は、知識の授受に留まらぬ、知的好奇心を多分にくすぐられるものでありました。先生方の現在に至る研究経歴等についてのお話も、院生である私達が直面し得る、リアリティを持ったものとして身近に感じられ、同時にこうした機会であれば滅多に伺うことの出来ないという点において本セミナーへ参加したことの意義を感じる部分であります。

学生の研究発表では、同世代の院生たちがいかなるアプローチでどのような内容を研究しているのかを耳にすることが出来、非常に刺激的でした。各人の発表内容もさることながら、それに対する先生方・学生たちの質問・指摘も含めて、自分自身の研究を振り返る良い契機となりました。専門分野の別によって着眼点が異なることを切に感じましたが、その点でもこうして「中東・イスラーム」という地域的共通項を持った院生たちが一堂に会して議論を交えることの意味は大きいと感じています。開催期間中に懇親会も含めて、同様の関心を持つ他大学の院生たちと、近い距離で交流出来ることも本セミナーの注目すべきポイントであります。これを機に他大学の院生と研究活動の交流を続けていければと思います。

また本セミナーは修士課程の院生が所属大学の外で発表する事のできる貴重な機会であります。今回は聴講での参加に留まりましたが、来年度ここで発表することを一種の目標として研究に勤しんで参りたいと思います。

廣田 侑奈（東京外国語大学大学院総合国際学研究所）

このセミナーに参加してとても有意義な4日間を過ごすことができました。

大学院に入って半年が経ちましたが、毎日何をするでもなくのんびりと過ごしていた私にとって、このセミナーは日々の怠惰な生活や研究に対する姿勢を見つめ直す大きなきっかけとなりました。このようなセミナーに参加するのは初めてでしたが、受講生の多くが私とあまり変わらない学年の方々だったので、とても話しかけやすく、同世代の学生の積極的な姿勢をみてとても刺激になりました。そして、夏休みで完全にだらけきっていた私の心に、私も自分の研究を頑張らなければ、たまっている資料を早く読まなければ、という思いが再び湧き上がってきました。もしこのセミナーに参加していなければ、ほぼ何の進歩もない夏休みになっていたと思います。このような機会を設けて下さったことに心から感謝いたします。

今回のセミナーで私は発表しませんでしたでしたが、決して受動的ではない、双方向的な体験ができました。様々な分野を研究されている方々の発表を聞き、新しい知識を得ること、質疑応答で様々な角度から見直すこと、そして普段は会えないような先生方や受講生の皆様と交流すること。このセミナーで得られたことのすべてが自分にとってプラスとなりました。

特に質疑応答では質の高い質問が多く非常に参考になりました。

研究計画をどのようにとらえるか、またさらなる検討の余地はないのか、といった私の力では絶対に気が付くことができないような様々な視点が質問によって提示され、自分の視野がいかに狭いものであったのかということを実感しました。また、質問の多くが、自分の研究に置き換えても考えられる問題点や必要な知識だったので、研究の進め方に関して多くのヒントを得ることができました。例えば、今回の質疑応答では「この言葉をどのような意味で使っていますか？」といった「言葉の使い方」についての質問が多かったように思います。このような質問を聞いて、私も普段から定義があいまいなまま使っている言葉が多いということに気が付きました。定義があいまいなまま同じ単語を多用すると後で大きな破綻が起きてしまう危険性があるので、やはり日本語で研究をまとめる以上は適切な言葉を選ぶ必要があるということを実感しました。今まで「なんとなく」使っていた言葉に目を向け、どうしてこの言葉を使うのかということを常に意識して研究をまとめたいと思います。

最後に、普段の授業とは違い、様々な分野を研究されているの方々から意見をもらえる機会というのは本当に貴重なものであると思うので、来年は何としてでも研究を目に見える形にまとめ、このセミナーの場で発表したいと考えています。自分を追い込むためにもここに記しておきます。

今回お世話になったすべての皆様に感謝いたします。

本岡 篤也（東京外国語大学大学院総合国際学研究所）

今回のセミナーに参加した最大の理由は、自分の指導教官である新井先生に勧められたためであった。

元々学部生のころは、古代オリエントのアッシュール王国の研究をしようと考えた。しかし、歴史を学ぶにつれ興味が近代に移り、オスマン帝国の研究に対象を移した。さらに院生となり、より時代の進んだトルコ共和国史に軸を移した。幸い、自分が在籍している東京外国語大学にはオスマン史、トルコ共和国史の専門研究者は多くいたが、これは縦の繋がりであり、横の繋がりには乏しかった。実際周りにはトルコの研究を志す者はいたがそのほかの中東研究者はいなかった。このような状況を心配していただき、先生は勧めて下さったのだと思っているが、実際に今度のセミナーに参加したことで多くの中東研究者と様々なレベルで知り合うことが出来、とても有意義なものになった。

全4日の中で受講者発表と先生方のセミナーから多く学び、濃密な時間を過ごすことが出来た。

受講者発表では受講者の論の構成の仕方あるいは史料の使い方から、受講生が気づかなかったところ、足りないところへの先生方の指摘など、主に方法論を学び、先生方のセミナーでは研究の実際に進め方、それを発表に落とし込む技術など研究論について深く学ぶことが出来た。また、最初は受講生間でも緊張した雰囲気は漂い、発表者への質問にも遠慮があったが、日が進むにつれ打ち解け、突っ込んだ質問やいろいろな角度や視点からの質問も飛び出し、受講者からの質問が多くされ、そこから多くのことを学ぶことが出来た。

また、セミナーの時間外に先生方に多くの質問をし、直接自分の研究に役立ちそうな史料のありかや、研究計画の立て方を教授して頂いたのはとても参考になったと思う。

実は参加する前は、単位のためにとったということもあり、発表もせずにお客さんの気分で席に座っていたが、発表やセミナーを1つ経るたびに、もっと能動的に参加したいという思いが強くなり、次回参加するときは是非発表をしようと思うまでになった。これはセミナーへももっとちゃんと加わりたいということでもあるが、やはり研究者は発表してナンボだなと思ったためでもあった。そこにいるだけ、質問するだけではなく自分の研究を発表し評価や批判をして頂くということが研究者には何より大事であると気づいたのだ。

もし、これを読んでいる受講希望者がいたとしたら、まずは参加してほしいと思う。たしかに不安だし、緊張するし、怖いと思うこともある。しかし、それはおそらく参加するまでだ。同じ中東研究を志す院生の人たちは優しいし、先生方はとても思慮に富んでいる。勇気を出すだけの価値はあるのではないかと思う。また、出来れば発表して頂けるととても嬉しい。それは自分の仲間が増えることを意味するからである。

柳井 孝太（明治大学大学院教養デザイン研究科）

私にとって、中東☆イスラーム教育セミナーは、夏季休暇の最後に君臨する一大イベントです。しばらく講義から離れていた身体にはかなり堪えましたが、新学期に向けて頭をフル回転させることができ、今後の研究への励みとなりました。私は昨年度に引き続き、参加させていただきました。昨年度は非常に緊張し、中々質疑応答の輪に入っていけなかったのを思い出します。その点、今年度のセミナーはとてもリラックスして臨むことができました。また、昨年度の参加者との再会も果たすことができました。まるで昨日会ったかのように会話を交わし、互いの近況を語り合いました。イスラーム関連の研究を行う人は決して多くはありません。イスラーム研究を志す同世代の友人と、ざっくばらんに語り合える時間は、何物にも代えがたいものになりました。

今回心残りだったのが、自分自身の研究発表を行わなかったことです。準備不足、実力不足、言い訳はいくらでも言えます。しかし、2度も参加して発表しなかった人はほとんどいません。もちろん、発表すれば誉められるばかりではありません。先生方の集中砲火を浴びたり、研究の未熟さを指摘され、恥をかくこともあるでしょう。私はそれが嫌で逃げてしまいました。しかし、恥をかくことは大事です。別にそれで人格を否定される訳ではありません。先生方は、研究者と同時に教育者としてセミナーに参加してください。至らない点を指摘し、研究が進展するようなアドバイスを必ずくださいます。発表を終えた受講生の晴れ晴れとした笑顔を見ていると、発表してこそこの教育セミナーであると感じずにはいられませんでした。もしチャンスがあれば、来年こそは必ず発表をしたいと思います。逃げ場が無くなるように、この場をお借りして、来年こそは必ず発表すると宣言させていただきます。

次に来年度のセミナー参加希望者に向けて、僭越ながら、このセミナーの良い部分を2つ書かせていただきたいと思います。1つ目は先生方との距離の近さです。普段は著書を通してしか接することのできない先生方と、ざっくばらんに話すことが出来るところです。質疑応答の時間に気後れしても大丈夫です。休憩時間や懇親会の際に、優しく答えてくださいます。

2つ目は、レベルの高い受講生の存在です。このセミナー参加者の中から、研究者として羽ばたく人も多いに違いありません。そう思わずにはいられないほどの人材が揃っています。しかも、20代の同世代です。非常に良い刺激になるはずです。中には、私のように劣等感や絶望感を感じる人もいるかもしれません。しかし、それはそれで発奮材料となることでしょう。

この感想を読んでもくださった人が、来年度は自分も参加してみようかなと思っていただければ幸いです。是非、来年度のセミナーと一緒に発表しましょう。最後にこのセミナーの実施・運営にご尽力いただいた全ての方々に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

山本 敬祐（九州大学大学院人文科学府）

中東☆イスラーム教育セミナーは東京で開催されました。福岡市東区の中だけで生活している私には、東京はとてつもないところの様に感じられます。しかし、案外すんなりと上京することができました。そして、東京にはとてつもない貴重で得難いものがありました。

セミナーの会場に入ると、自分とあまり年の差のない多くの受講生の方々が目に映りました。中東、あるいはイスラームに関する研究に関わっている同世代の人物が本当にこんなに存在したのかと慄然としました。受講生発表は当然のことながら様々な時代および地域を対象としたもので、学問領域も歴史学のみにとどまるものではありませんでした。それらのすべてにおいて新たな発見や自分の研究を進める上でのヒントとなりそうな事柄がありました。また、各発表での質疑応答では質問のつくり方と回答の方法について実践的な経験を積むことができました。

中東☆イスラーム教育セミナーは受講生による発表のみでできているわけではありません。先生方によるセミナーがありました。セミナーは刺激にあふれていました。聞き慣れない言葉や、深く考えたことのない研究手法などが次々と現れ、目が回りました。研究の内容のみならず、先生方の歩んでこられた道についても直接お話をうかがえたことは自らの今後を考える上で非常にありがたい経験となりました。自身の至らなさを実感しました。

刺激的な体験は受講生発表とセミナーの時間以外にも発生しました。休憩時間、懇親会等の際には諸先生方、受講生の方々と交流する機会があり、普段の生活の中では聞くことのできないことを聞き、言うことのできないことを言うことができました。研究に関わることはもちろんですが、研究とは直接関係のないような話ができたといい点でこれらの機会は貴重なものとなりました。

この教育セミナーでは本当に様々な方と直接お会いすることができます。そして直に接することでしか得られないものを得ることができます。他の受講生の方の感想にもそのようなことが記してあると思います。私が東京で得た経験の中で最も重要なものは、初対面ではあるけれども必ず自分に足りないものを示してくださる方々との会話でした。この体験ができるということが、この教育セミナーの最大の魅力だと思います。教育セミナーに参加しなければその魅力には触れることができなかつたと考えると、参加して良かったと切に感じます。教育セミナーという場を用意して下さったことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

李 若菲（慶應大学大学院社会学研究科）

昨年度に引き続き、中東☆イスラーム教育セミナー2 回目の参加となりました。前年度の自分は関係分野について不勉強であり、また日本語能力も欠けていたため、質疑や感想は言うまでもなく、懇親会でも先生や他の受講生とうまくコミュニケーションが取れなくてとても残念でした。昨年度の悔しさを晴らすために、もう一度セミナーに申し込みました。

私は社会学を専攻し、学校のゼミでは主にアジア地域の移民研究を中心に勉強しており、中東・イスラームについての勉強はとても限られています。セミナーの講義と発表は広い地域とテーマを多角的に扱い、日頃自分のゼミだけでは触れられない話題について深く勉強ができます。政治学、人類学、歴史学など異なる専門分野から中東やイスラームに関する共通の問題意識を明らかにすると同時に幅広い話題に触れます。特に、イスタンブールの都市社会の変容、イスラーム経済、パレスチナの難民・移民研究などの講義は現在のホットなトピックと直接関わり、普段ニュースや記事で触れないことも勉強できました。4 日間のセミナーを通して、多分野、広い地域、テーマを聴き、様々な優秀な研究者と交流し、励みになるとともに勉強にもなりました。

セミナーの講義は私の一番勉強になった部分です。オスマン演劇ポスターの講義を受け、歴史が苦手な私は初めて歴史の研究から鮮烈なイメージを受け取り、歴史研究者の粘り強さを感じました。

また、パレスチナ難民・移民の講義、湾岸というフィールドの講義によって、初めて人類学的視点から地域研究の方法を認識し、人類学の面白さと研究の重要性を深く感じました。受講生たちとのコミュニケーション、また受けた講義・発表によって、知識の勉強になり、さらに、研究者や受講生の研究に対する熱意と愛情も強く感じられました。今回のセミナーは知識を広げる機会になり、自分の研究を続ける勇気と刺激もいただきました。

最後に、このような機会をいただきましたことにつき、先生方、事務局の担当者様、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げたいと思います。